

2019「新港の森 四季の観察会」第1回

1. 目的 新港の森を、四季を通じて観察し、樹木の名前を覚えるだけでなく樹木の不思議さと人と樹木、生活と樹木のかかわり、生態系における役割について学ぶ。
新港の森は人の手によってつくられた公園、樹木も人が植えたものということ踏まえてここならではの話題を解説する。
今年度から太閤山ランドの西尾氏にもサポートに加わっていただく。

2. 日時 平成31年4月13日（土） 晴れ

3. 参加者 20名

4. 講師 樹木医 佐伯 肇

5. 開催者・事務局 新港の森管理事務所 筒井 所長
同上 西尾 氏

6. テーマ 「樹木たちがかわいそう？」

7. 概要（計画）

- 人の安全の犠牲になっています
- 造られた土と樹木
- イルミネーションと樹木
- 人気ナンバーワンの街路樹
- 明治神宮100年の森と新港の森

8. 解説の実施内容（当日の観察経路の時系列に沿って記載）

- メタセコイア・・・街路樹として人気がある。
絶滅したと思われていたが1945年中国 四川省で発見された。
種が日本にもたらされ栽培に成功、数を増やした。
ヒノキの仲間 種は球果 葉は複葉に見えるが単葉で秋に黄葉する
和名 アケボノスギ
- アジサイ・・・花と思われているものは実は装飾花 タマアジサイは装飾花の集まったもの
この時期は前年の枯れた花と新しい葉が同時に見られる

- 樹皮について

樹皮をだけを見ての樹木の判別ができる人は少ない。

葉が出る前の時期は樹皮、樹形、幹の色などを観察できるので情報の蓄積をするのによい



- ケヤキ・・・富山市の木 最初は街路樹でも人気だった

- 街路樹の変遷・・・配布資料に街路樹の変遷あり

当初、街路樹は人がその場所に似合ったもの、欲しいものを植えていたが現代は管理のしやすさ（人件費がかからない、選定の負担が少ないなど）が求められる

近年上位に挙がってきたものでは

- ・ハナミズキ・・・管理がしやすい 樹高が少し低く選定が容易
葉も花も近年、好まれる傾向
- ・ケヤキ・・・木陰を作る 但し背が高く落ち葉も多い
- ・大きな葉の木は細かなものより回収に手間がかからなく、乾燥すると細かく砕け目立たなくなる

- 人気街路樹にも短所はある（西尾氏）

- ・プラタナス・・・1年で3メートルほども枝が伸びるので剪定が重要
- ・ハナミズキ・・・名前にもあるように水分を好むので街路樹としては環境に弱い
- ・トウカエデ・・・病気に弱い

街路樹は人の枠にはめられたもので、樹木にとってはかわいそうな状況

- プラタナスについて（山崎）

街路樹として人気がある

日本ではスズカケノキとも呼ばれる。この名前の由来はプラタナスの実（そう果）が山伏（修験者）の装束に付ける丸いポンポンのようなものに似ているところからプラタナス類は3種縷ある

- ・スズカケノキ・・・西アジア原産 ローマでも街路樹に使われていた
- ・アメリカスズカケノキ・・・北米原産

そして両者の交配種である

- ・モミジバスズカケノキ・・・イギリスで交配され作られた

街路樹として使われるのはこのモミジバスズカケノキが最も多い

スズカケノキは早魃に強い、丈夫、成長が早いなどの特徴がある。街路樹に選ばれる理由もここにあるのかも。

- 園内にあるスズカケノキはどの種類？

樹木を見分けるポイントは樹高、樹形、葉の形（広い・細い）、鋸歯の有る無し
落葉か常緑などがありますが、スズカケノキの3種のそれぞれの特徴は

- ・実の数が違う スズカケノキは 3～7個
モミジバスズカケノキは 1～3個
アメリカスズカケノキは 1個（まれに2個）
- ・葉の切れ込み スズカケノキが深く 次にモミジバスズカケノキ
アメリカスズカケノキが最も浅い
- ・樹皮 スズカケノキは 灰白色 うろこ状に剥がれる
モミジバスズカケノキは 白っぽくうろこ状に剥がれ緑・白・褐色の
斑状になる
アメリカスズカケノキは 幹の下部の樹皮があまり剥がれず褐色が強い
- ・そう果 スズカケノキ・モミジバスズカケノキは くちばし状の突起がある
アメリカスズカケノキは 突起がなく丸い

などがあります

以上を踏まえて園内の木を観察してみると

幹の褐色が強く実も1個の木・・・これはアメリカスズカケノキ

樹皮が大きいうろこ状に剥がれ斑、実が2個・・・これらはモミジバスズカケノキ？

樹木につけられたプレートはアメリカスズカケノキとあるが、葉が出て新しい実がなった時に
また観察して確かめることにした。

樹木は個体差、環境による影響などもあるのでよく観察することが大事

- ヒイラギナンテン・・・背の低い木 園内で高い木に対してアクセント
となっている。
ヒイラギナンテンに混じって葉が細い
ホソバヒイラギナンテンがある。
植えられたものではなく後からやってきた
ものと思われる 運んだものは鳥？風？



- 明治神宮の話・・・神宮の森をつくるにあたり本多清六が多種多様な樹木を植えることを提案
人が造ったものが自然の森を形成していく100年後を見据えた計画だった。
新港の森も緩衝地帯として設計された人工の森だが、当初、植栽したもの
以外のもも入ってきている。
年数をかけて見守っていきいたい。
森の土を豊かにするために落ち葉を土に返す、伐採した木をチップにして
撒いているなど、取り組みも行っている。
- コブシ・・・似た花のタムシバとの違いはコブシは花の下に托葉があること
タムシバには托葉がない
秋には赤い拳（こぶし）のような実がなることから名づけられた

- クワ・・・・・・・・カイクのえさ 絹糸の生産のため積極的に植えられた時代があった
日本の樹木の3%を占めたこともある

- イヌシデ・・・・雄花が咲いていた 樹皮は灰色でたて筋がある
幹の断面はでこぼこしている・・強度を高めていると思われる。



- 土の話・・・・造成地はおおむね造成した後に穴を掘って樹木を植えているが
土が硬く、樹木の根が下に伸びていけずに横に張り出す
土の中の空気と水分は5対5が理想的
土の中ではミミズが貢献している ミミズは土を食べて必要な栄養分を摂取
してまた土をフンとして出す、ミミズの通った穴は空気の通路となる

- クロマツ・・・・塩害に強い 新港の森でもたくさん植えられている
浜黒崎のも参勤交代の行われていた時代に沿道に植えられた
かつては100本あったが今、残っているのは16本
道路整備、マツクイムシの被害のため

- マツクイムシの話 (川西氏)

松枯れ病の原因はマツノザイセンチュウ

マツノザイセンチュウはマツノマダラカミキリに寄生して木から木へ移っていく

アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツが

この寄生虫で病気になる

特效薬はない 一度センチュウが入ったらおしまい

マツが枯れたら伐採して燻蒸もしくは焼却処分

延命策として樹幹注入をして虫が入るのを防ぐ



マツノザイセンチュウはもともと日本にはいなかった

長崎に運ばれた木材から発生した人為的なもの 在来のマツノマダラカミキリとあつて
広がった

日本の生き物は弱いと思われているが日本から持ち込まれたクズ、イタドリが海外で害を
及ぼしている。

貿易などの人為的行動の影響を樹木も受けている

東北の震災で、様々なものが流されたが海のホヤもアメリカへ到達しカキに被害を
与えている。(西尾氏)

- マツの歴史・・・魏志倭人伝には登場しない この頃は重要な樹木ではなかった
農業の発達と鉄の製造の火力としてマツがクローズアップされる
人の役に立つ樹木は積極的に植えられる
- 庭から気づくこと（雄山氏）
建物の距離が近い樹木の根が建物の基礎を持ち上げてしまい
木を切ることになってしまった
最初に植えた人が将来どうなるのかを見据えておかないといけない
樹木は成長することをきちんと考えて植えなければいけないと感じた

- イルミネーションと樹木
LED電球が発達し、樹木もモニュメントとして
利用されることが多くなったが、樹木にも夜の暗さは
必要、光が樹木に与える影響をよく考えなければ
いけない



- カツラ・・・ハート形（心形）の葉 カラメルのような香りがする 秋、黄葉した頃、香りが強い
- 本の紹介・・・高志の国文学館で開催された 倉本 創展より「森のささやき 聞こえますか」
“土地は所有できても自然を所有する権利はない
自然を守り育て子孫に渡す義務がある これは先人からの伝言である “

レイチェル・カーソン 「沈黙の春」
農薬、化学肥料の弊害を問う本

●

9. 反省、感想など

- 今回からサポートとして参加していたメンバーも参加者に向けて
解説等をおこなった。
- 視覚的にわかりやすくするために図を用意するなどして工夫して
いた
- 昨年、参加された方が多く参加されていた。
- 昨年あった樹木の名前を知りたいという要望にも応えていくようにした
- 話の範囲が少し広がり、最後まで熱心に聞いていただけたと思う



(記録 山崎 玲子)

以 上